

## 研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者<sup>※</sup>の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<研究課題名> 乳児期早期の頭部 MRI 検査における真空固定具の適正な使用法の検討
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 小児科・新生児科 (研究責任者) 森岡 一郎
<研究期間> 承認日 ~ 令和 6 (西暦 2024) 年 9 月 30 日
<対象となる方> 西暦 2022 年 8 月 1 日 ~ 西暦 2023 年 7 月 31 日の期間に当院 NICU・GCU で入院中に MRI 検査を施行した方
<研究の目的> 乳児期早期の MRI 検査では以前は内服の鎮静薬を使用することが一般的でした。近年、どの鎮静薬でも危険性があることが明らかとなり、鎮静薬を使用しない検査方法として真空固定具を用いた MRI の検査が普及し始めています。真空固定具を使用した MRI 検査では体温上昇を認めることが報告されており、課題となっています。今回、真空固定具を使用した MRI 検査での体温上昇の要因に関して評価し、真空固定具の適正な使用方法について検討することを目的としています。
<研究の方法> 病棟で真空固定具を着用し、MRI 検査室まで真空固定具を着用したまま移動し、MRI 検査を施行します。真空固定具での固定前の体温と MRI 検査後の体温を比較します。真空固定具を装着してから検査前までの時間と MRI 検査の時間、その合計の真空固定具を装着していた時間の 3 つに関して要因となっている時間を調べ検査後の体温と比較します。また、検査後の体温が 38 度以上の高体温となる要因に関しても調査します。
<研究に用いる試料・情報の項目> 診療記録からの基本情報 (性別、在胎週数、体重、撮像時体重など) や研究に用いる検査時の各時間の記録。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院 (東京都板橋区大谷口上町 30-1) 小児科・新生児科 氏名: 森岡 一郎 電話: 03-3972-8111 内線: (医局) 2442 (PHS) 8120

※研究対象者とは、以下に該当する方 (死者を含む。) を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方